

2015 年度 学校自己評価報告書(法政大学第二中・高等学校)

<b>教育理念・目標</b>	<p>教育理念:本校における教育は、人格の完成をめざして国民的共通教養の基礎を築き、平和で民主的な国家および社会の形成者を育成することを目的とする。</p> <p>教育目標①:人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。</p> <p>教育目標②:獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもつ諸課題と向き合う視野を培う。</p> <p>教育目標③:学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることのできる土台を獲得する。</p> <p>教育目標④:自己を客観視し、社会の中でどのように生きるかを考える能力をつける。</p> <p>教育目標⑤:自己の諸課題の解決・現状の变革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的能力を獲得する。</p> <p>教育目標⑥:高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自立の力を獲得する。</p>
<b>重点目標</b>	<p>1、2016 年度の男女共学化に向けて具体的な準備を実行する。</p> <p>2、新校舎の使用開始に伴い、表出する具体的課題を解決する。</p> <p>3、教育目標を達成するために生徒一人一人に高い学力をつけさせるための具体的実践の研究をする。</p> <p>4、中高 6ヶ年を視野に入れた生徒の自主活動を伸ばすための工夫をする。</p> <p>5、法政大学・育友会(PTA)・同窓会・地域との連携を強化する。</p>

共通課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 年 月 日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	建学の精神 (建学の精神や理念の理解と意識化)	法政大学の付属校として学園の一翼を担う自覚を入学当初から意識化させるために、中学1年生の「校外授業」、高校1年生「新入生合宿」など行事や、中学校 1 年社会科の授業を通じて、本校の建学の理念「自由」と「進歩」について大学史や二中高史の独自プリントを使用して学習する。				
2	組織運営	全教職員が組織的取り組みを通じて、教育方針をたて、実践をし、総括する。そのために年度末に1年間の教育活動を振り返る総括を行い、そこから導き出された教訓を方針化して教育実践をしていかなければならないと考える。第二期工事完成にともない、新図書館を本校教育の核となすために、新しく図書館運営委員会を立ちあげ、準備を行った。また、新学校構想実現のために、生徒組織と連携する国際交流員会を立ち上げた。教員会議を通じて方針をたて、中間点検で実践活動の達成状況を確認し、年度末に総括を予定通り行う事ができた。				
3	教育活動 (教科、生活、進路、行事、自主活動等)	<p>教科においては、学力向上に向けたカリキュラムの再構築と実践を展開した。学力の到達状況に即して特別指導や課題設定を行い、それをやりきるための学習支援を継続した。これらの取り組みを通して、多くの生徒を法政大学推薦に値する学力へ到達させることに努めた結果、全体として各教科目の学力到達度、および法政大学への推薦率も前年度の到達を維持することができた。また、学校改革の一環として、「教科教育における6カ年体系化」の中長期計画に基づき、2016 年度カリキュラムを準備した。特に、学校コンセプトである「調べ、討論し、発表する」教科活動の推進に向け、ICT機器を活用した授業づくりをいっそう活発化すると同時に、学習情報センターとしての図書館を活用した教科教育の実現に向けて学内で研究会を開催した。来年度は、教科活動上の成果と課題を明らかにしながら6カ年の体系化を進行させ、いっそうの学力向上とそれに基づく法政大学推薦率の維持向上を図る。</p> <p>生活指導において本年度は、共学化のための最後の準備年度であり、「最終準備・点検・微調整」といった活動内容を重視した。「中・高6カ年の生活指導の体系化」をはじめ、生徒の学校生活の様々なルールの明確化や、昨年度までの「クラブ再構築」をもとにした、女子生徒を含めた共学化でのクラブ活動のシミュレーションや環境整備に重点を置いた。</p> <p>また、新入生(中1、高1)については例年と同様に多様化する生徒実態に対し、校外授業(中1)や新入生合宿(高1)を通じて、個別的な生徒実態把握につとめ、他学年については前年度の学年との連携の中で個別的把握を行い、それ以降の指導の手立てに反映させた。</p> <p>また、保健室やカウンセリングルームと連携の中、より詳細な恒常的実態把握と、きめ細かな指導を展開した。</p> <p>生徒の自主的活動においては、HRでの組織討議を中心に、体育祭や二高祭といった行事</p>				

		<p>をはじめとした自主的取り組みが行われていく中で自治意識と民主的運営能力の基礎の確立に努めた。</p> <p>クラブ活動においては健康・安全に関する観点を最重要とし、科学的トレーニング・研究の推進を中心とする中で、より質の高い活動を展開し、多くのクラブが高い成果を上げた。また、と自主的・民主的運営を基本としつつ学年を越えた民主的集団作りを進め、合わせて自治意識と民主的運営能力の向上に努めた。</p>	
	<p><b>安全・保健管理 (保健、安全、防災、施設等)</b></p>	<p>定期健康診断・体力測定(スポーツテスト)を実施した。その結果と分析を返すことで生徒は自分の体力や健康状態を知ることとなり、さらには健康への認識を深めるようになった。AEDは学校内に8カ所設置しており、どこに設置されているかを理解させる取り組みを行っている。夏休み前には教職員対象及び生徒対象(各部の代表者)の安全講習会を実施し、救命救急について学んでいる。さらに授業でも心肺蘇生法や救急法について学んでいる。また近年増加しつつある多方面の問題に対処しなければならない生徒、保護者のためにカウンセリングルームを充実させ、必要な連携が取れる体制を作っている。</p> <p>避難訓練は特別防災訓練も合わせ計3回実施し、避難場所と避難経路の確認を行っている。昨年度より中学生と高校生が同じ校舎に入り、大人数の生徒が一斉に避難することに関しては課題もあるが、整然と訓練を繰り返すことで非常時でも慌てずに行動出来るよう指導していきたい。何よりも生徒達の健康・安全を念頭に、新校舎建築工事が続く中、より適切な避難経路と場所については検討を継続する。中原消防署の指導の下、教員向けの通報訓練と火災における初期対応訓練も行った。</p>	
5	<p><b>連携 (保護者、卒業生、地域等)</b></p>	<p>保護者との連携では、育友会(PTA)との連携を基礎に、育友会理事会の円滑な運営に寄与した。中学高校と別組織だった育友会を共学にふさわしい新しい育友会とするため統一することを総会で確認し、2016年からスタートすることを決めた。また、「育友会集中ミーティング」は、昨年度同様に12月上旬に行われ、学校と保護者の意見交換が成された。また、定期的に育友OB会、白塔会(中学保護者OB会)との連携も行った。日常的な保護者連携としては、各学期に開催される保護者会やクラブ保護者会を軸に、クラス担任、養護教諭、カウンセラーを中心に、各学年がチームとなって生徒個々の実態把握と対応を行った。</p> <p>卒業生は同窓会を窓口として、監督コーチ懇談会(日常の部活指導におけるOBとの連携)、加えて二中文化祭・二高祭においてより多くの卒業生に現状の本校を理解してもらうために「卒業生の広場」を開催した。進路指導の一環としてOB講演会を実施した。新校舎建築と共学化に向けた募金活動を同窓会と連携して旺盛に実施していきたい。</p> <p>地域等との連携では、「地域に愛される法政二中高」をめざし、毎年行われる地域懇談会での率直な意見交換を始め、地域の方々からお寄せいただく各種ご意見への対応、学期末ごとに生徒が行う地域清掃ボランティア(各部の部員が中心となって取り組む)、吹奏楽部による地域のお祭りへの参加、教員による年5回の登下校路上指導を行った。また二高祭に於いて、地域の商店街と話し合いを持つことで、期間中3店舗が出店してくれた。</p>	
6	<p><b>大学との連携</b></p>	<p>法政大学の15のすべての学部と3つの付属校とが協同して取り組んだ「ウエルカム・フェスタ」は、一昨年度のトライアル開催から数えて3回目となり、市ヶ谷キャンパス、外濠校舎で開催された。付属3校の高校1年生全員を対象に、薩埵ホールで「法政大学」の自校教育、大学での「学び」についての概論を全体会として行い、その後、5会場に分かれ学生・大学院生による具体的な「学びのモデル」の紹介を行った。取り組みの全体を通じて、これから3年間を過ごす、高校での「学び」の位置づけについて考えさせることをねらいとした。また、今年度も同時開催した保護者向けプログラムでは、薩埵ホールでの全体会の様子を遠隔システムで視聴していただいた後、大学生を巡る就職状況、高校生から大学生そして社会人へと成長していく子と親との関係についての講演が行われ、好評だった。</p> <p>理系学部の新しい取り組みとして、昨年度初めて夏休み期間に開催された「One-Day Science College in Koganei Campus」は、今年度も取り組まれた。小金井キャンパスにある理工学部、情報科学部、生命科学部の3つの学部が高校生に向けて最先端の研究・技術を体験してもらう企画として、理系分野に興味関心の高い生徒が参加している。今年度は特に理工学部機械工学科航空操縦学専攻企画の航空機操縦シミュレーションの人气が高かった。昨年度よりも開講プログラムを絞ったが、3次元モーションキャプチャプログラミングやビッグデータを生活に活用するデータサイエンスの基礎、数列を使って現象を表す体験、色彩について分子を仮想的に合成し、分子の形と性質との関係についての体験、身近な植物に感染している病原菌を電子顕微鏡で見るなど、充実した取り組みであった。</p> <p>高校2年生は7月に、3年生では、6月に各学部より大学教員を招いて進路講演会を開催し、それぞれの成長過程に合わせて、成功させてきている。大学各キャンパスでのキャンパス・ゼミ見学会も7月に行われ、生徒の進路選択の機会の一つとなっている。「3年3学期プログラム」の取り組みでは、学部毎のクラスに分かれての「テーマ研究」を行っている。課題文献の紹介や研究テーマについての大学教員、大学院生からの助言指導と各学部での入学前教育(ガイダンス)などで大学の援助を受けている。</p> <p>今年度は、「3年3学期」の期間に合わせ、スポーツ科学研究所主催のシンポジウムが開催され、スポーツ健康学部進学予定生徒も参加した。</p> <p>毎年年度末に開催されている「三付属校合同教育研究集会」への大学教員の参加が今年度は少なかった。付属校からの大学への働きかけは必要であろう。</p> <p>今後、さらに取り組みを通じて高大教員の交流、協同の広がる可能性がある。</p>	

付属校独自課題

No.	評価基準	学校自己評価				学校関係者評価
		年度目標		年度評価		実施日 年月日
		現状と課題	具体的な取組	達成状況	次年度への課題と改善策	学校関係者からの要望、評価等
1	新校舎の移転準備	<p>新校舎・キャンパス完成に向けた第Ⅱ期工事として木月総合文化棟が無事故で竣工を迎えた。木月総合文化棟では、講堂(木月ホール)をはじめ、図書館、学生食堂、多目的教室、文化クラブ部室など本校を特徴づける施設が含まれている。移転準備としては、これまでの中学図書館と高校図書館を併せ、情報視聴覚教室を兼ね備えた図書館とする膨大な準備作業があったが、無事に終了し、新年度の開館を迎える準備ができた。また、講堂利用開始に向けた各設備・備品の準備など問題なく行われた。全キャンパスの完成(2017年3月予定)に向けて、残すところグラウンド・外構整備となった。今後、最終的なキャンパスの完成に向けては、まだまだあと1年間かかることであり、校内動線をはじめとする様々な対応が必要である。法人内の関係組織・関連業者の協力もあり、これまで無事故で進められてきたが最後の竣工まで生徒・教職員が安全・安心な学校生活が行えることを第一に各関係者と連携し、無事故で進められるよう務めていきたい。</p>				
2	入試広報	<p>2015年度は共学募集初年度の活動となり、本校が積み上げてきた歴史を踏襲しつつ、全校あげて推し進める「新しい学校づくり」を見据えた入試広報活動に取り組んだ。広報活動については、本校を知る重要な媒体である『学校案内』の作成にあたっては、視覚的インパクトを重視した昨年度の部分改定にとどめ、5月・6月に進学塾・公立中学校等に送付した。また外部での各種説明会(塾・中学校・海外日本人学校・私立中高協会主催など)へ積極的に参加し、二中高教育の本質や新しい入試制度についての正確な理解を促すなど、これまで以上に丁寧な活動を心掛けた。HPについては4月に共学化を意識した形でリニューアルし、「新しい学校」のイメージを持ってもらえるよう情報発信に取り組んだ。今後は最新の情報を提供するのは勿論のこと、特に新入生の様子を随時発信する枠組みを構築し取り組みたい。入試に関しては中学入試において帰国生入試を実施するなど、「新しい学校づくり」に向けて動き出した。</p>				
3	新制服の制定	<p>昨年度は夏服・制服の中に着るセーターやベストを決め、16年度新入生の制服が決定した。今年度は服装のルールなどを決めた。また、靴下・靴についても論議し、靴下の色は決めたが、ともに学校指定とはしないこととした。</p>				
4	2016年度学校構想(国際交流の推進)	<p>国際交流の推進に向けた諸準備が進められた。姉妹校オレワ・カレッジとの交流25周年記念行事が、オレワ・カレッジにて行われ成功裡に終わった。オレワ・カレッジでは2016年度より本校の長期留学制度が始まる。また、2016年度より、二中高独自によるカナダ研修も始まりその準備が進められた。学内での国際交流の基盤となる生徒による国際交流委員会の立ち上げ準備が行われ、一定の到達をもって2016年度を迎えることになった。高大連携という観点からも、法政大学台湾教育センターとの連携が進められている。</p>				
5						
6						